



# 2022年12月期 決算補足説明資料

2023年2月3日

# 2022年12月期 連結業績



単位: 百万円

	2021	2022	増減	増減率
売上高	20,354	<b>25,564</b>	+5,209	+25.6%
営業利益	2,709	<b>3,756</b>	+1,046	+38.6%
当期純利益	1,773	<b>2,562</b>	+788	+44.5%

## ヨウ素及び天然ガス事業

- ヨウ素製品の販売数量は堅調に推移
- ヨウ素国際市況は堅調に推移
- 原燃材料価格上昇の影響はあったが、大幅な円安による増収もあり  
前期比増益

## 金属化合物事業

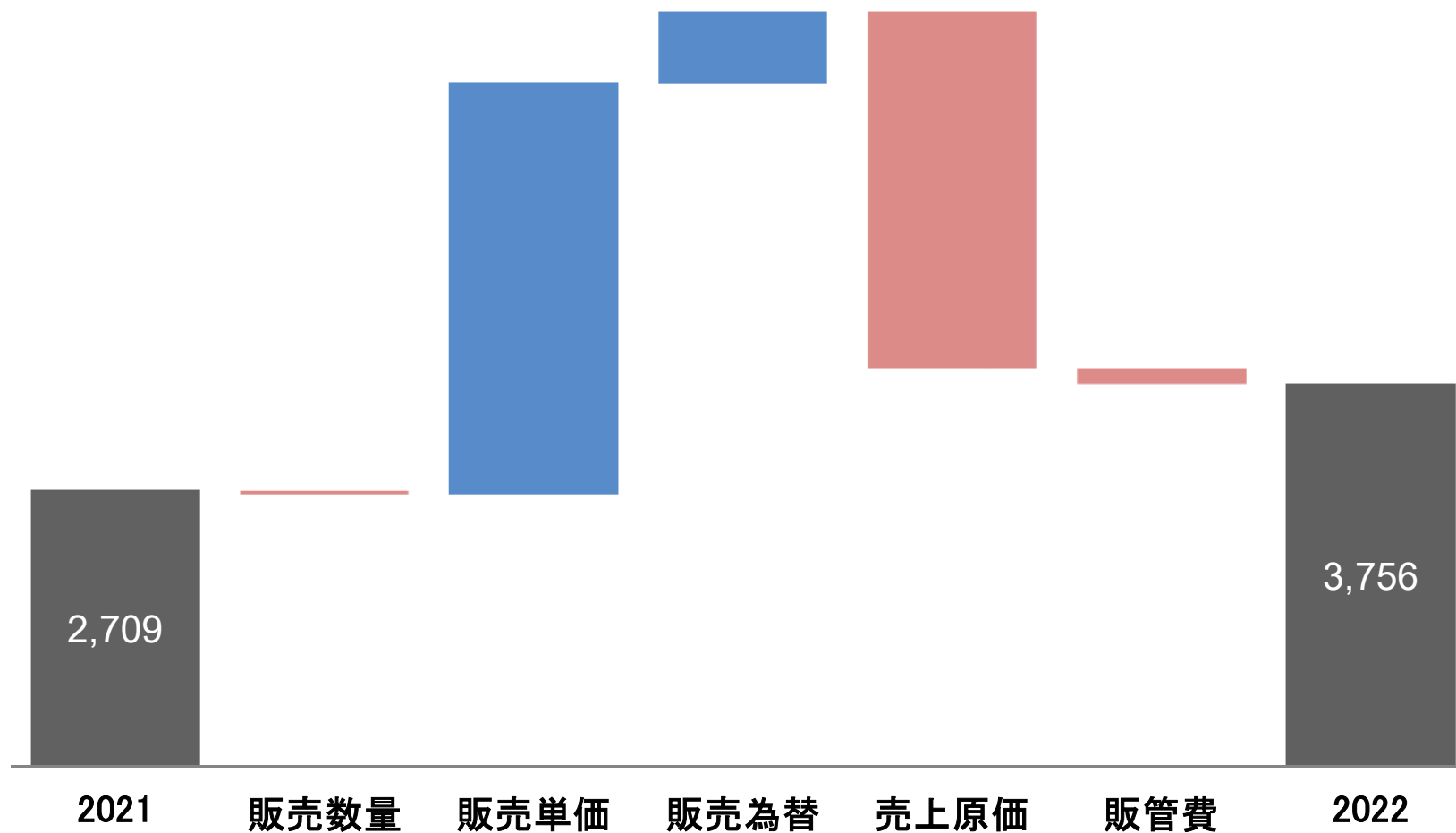
- 塩化ニッケルの販売数量が堅調に推移
- 金属相場が上昇

# 営業利益 増減要因分析



営業利益 前年対比 +1,046百万円

単位:百万円



# 2023年12月期 業績予想



単位:百万円

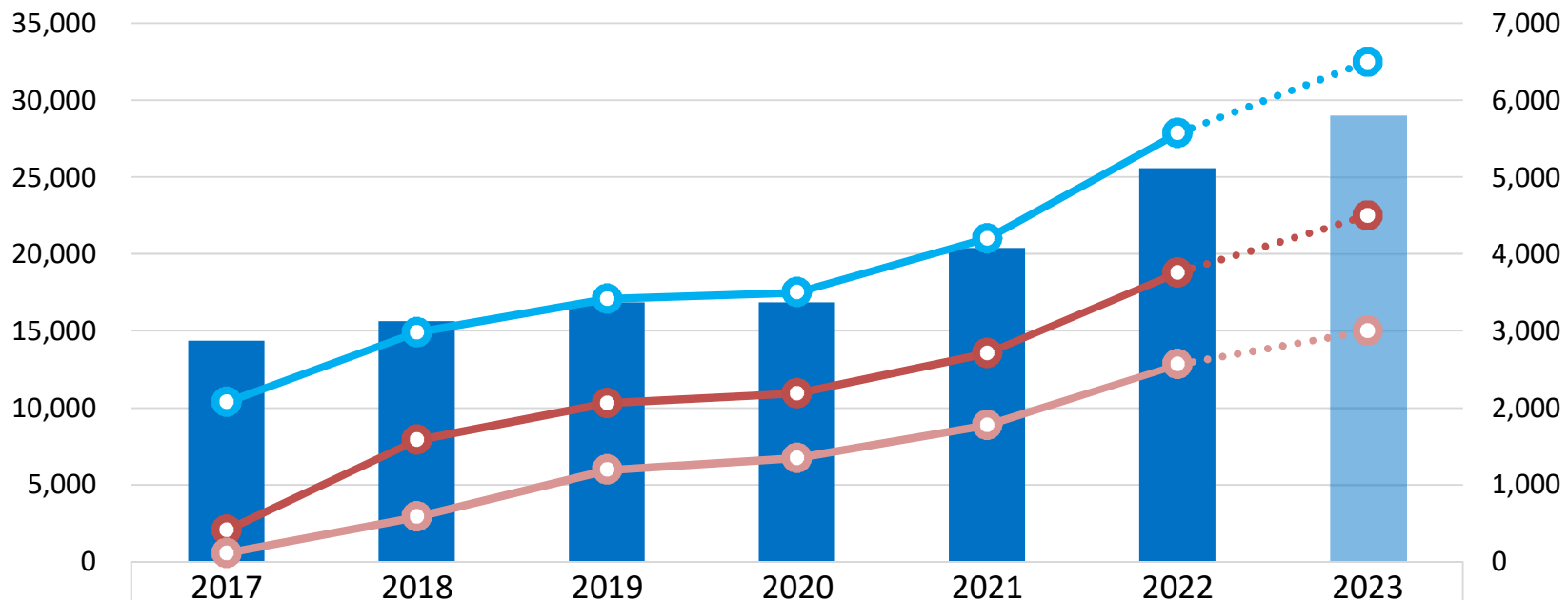
	2022	2023	増減	増減率
売上高	25,564	<b>29,000</b>	+3,435	+13.4%
営業利益	3,756	<b>4,500</b>	+743	+19.8%
当期純利益	2,562	<b>3,000</b>	+437	+17.1%

- 上半期の販売数量は、各事業ともお客様における在庫調整の影響を受け前年同期比で減少を見込むが、下半期は回復
- ヨウ素国際市況は引き続き堅調に推移
- 原燃材料価格の更なる上昇、新規坑井開発・維持更新等の設備投資による減価償却費の増加も見込むが、堅調なヨウ素国際市況に支えられ増益

# 業績推移



単位：百万円



	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
■ 売上高	14,348	15,615	16,854	16,859	20,354	25,564	29,000
● 営業利益	406	1,580	2,057	2,185	2,709	3,756	4,500
● 当期純利益	109	578	1,191	1,343	1,773	2,562	3,000
● EBITDA	2,073	2,979	3,414	3,497	4,198	5,568	6,500
減価償却費	1,666	1,399	1,356	1,311	1,489	1,812	2,000
設備投資	1,028	1,991	2,066	2,528	3,230	2,048	2,800
営業利益率	2.8%	10.1%	12.2%	13.0%	13.3%	14.7%	15.5%
ROE	0.5%	2.4%	4.9%	5.3%	6.7%	9.1%	9.9%
JPY/USD	112.2	110.4	109.1	106.8	109.9	131.6	130.0

## ヨウ素及び天然ガス事業

### ヨウ素

- 中長期的には、世界の間層人口の増加、発展途上国を中心とした経済成長等により、医療用途を中心に安定的な成長を見込む

### 天然ガス

- 天然ガスは化石燃料の中では比較的温室効果ガスの排出が少なく、貴重な国内の地産地消のエネルギー資源として重要な役割を果たすことから、当面は堅調な需要を見込む

## 金属化合物事業

- 主力製品の塩化ニッケルは、積層セラミックキャパシタ(MLCC)の素材として使用されており、今後の需要は、電子回路の高集積化による電動化、自動運転化の車載用途、5G技術の急速な発展による通信用途が急激に拡大することから、大きな成長を期待

# 対処すべき課題 1/2



## ヨウ素及び天然ガス事業

### ➤ 安全安定操業を最優先

既存設備の維持・更新を積極的に実施し  
防災体制を強化。お客様が安心できる供  
給体制を構築

### ➤ 新規坑井の開発を継続

既存坑井の生産減退を補うとともに供給能  
力の拡大を目指す

### ➤ 限られた天然資源の有効活用

常に最善の製造プロセスを目指し高効率化を図るとともにリサイクルの向上に  
努め、投資に伴う製造コストの上昇の圧縮を図る

### ➤ カーボンネットゼロ社会実現への貢献

製造プロセスの高効率化の取り組みにおいて、省エネルギー化へ一段と注力



ヨウ素生産設備:ブローイングアウト塔

## 金属化合物事業

- MLCC向け需要の拡大に的確にタイミングを合わせ、生産体制を強化
- お客様と連携し一層のコストダウンを図る



MLCC向け製品: 塩化ニッケル

## 研究開発

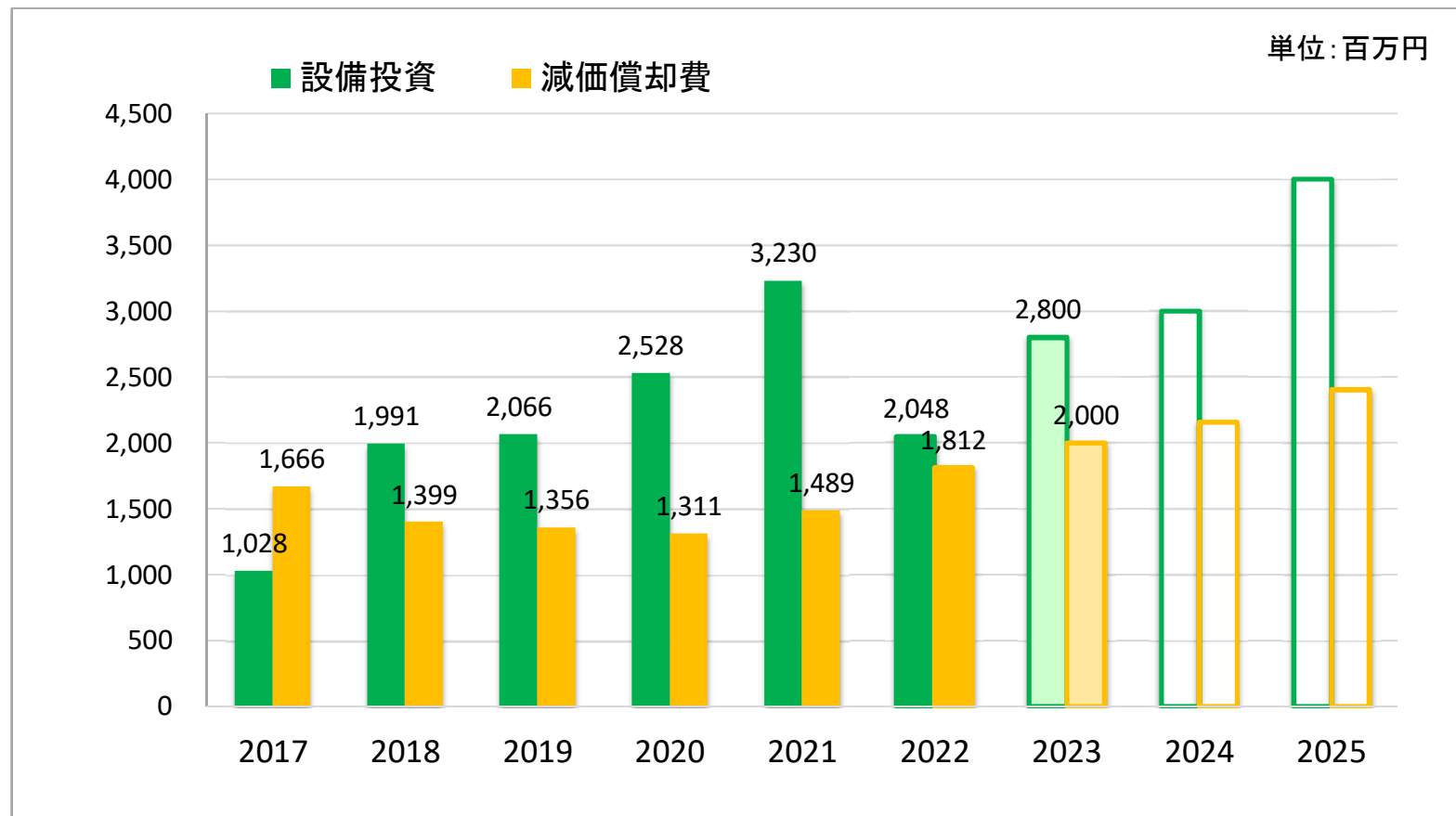
- 当社の販売は特定用途の需要に依存するところが大きく、中長期的に安定成長が見込まれるものの、大幅な技術革新により需要が大きく変化することも考えられる。そのため、新商品開発及び新規事業の創出が急務
- 社内の資源を活用するだけでなく、外部研究機関と積極的に提携し開発、創出のスピードを上げる



# 設備投資



- コンスタントな需要増加に支えられ、事業全体の市場規模は年々拡大
- この事業環境を活かし、新規坑井開発、送水・送ガス配管の新設・更新等の設備投資に、引き続き積極的に資金を投じる



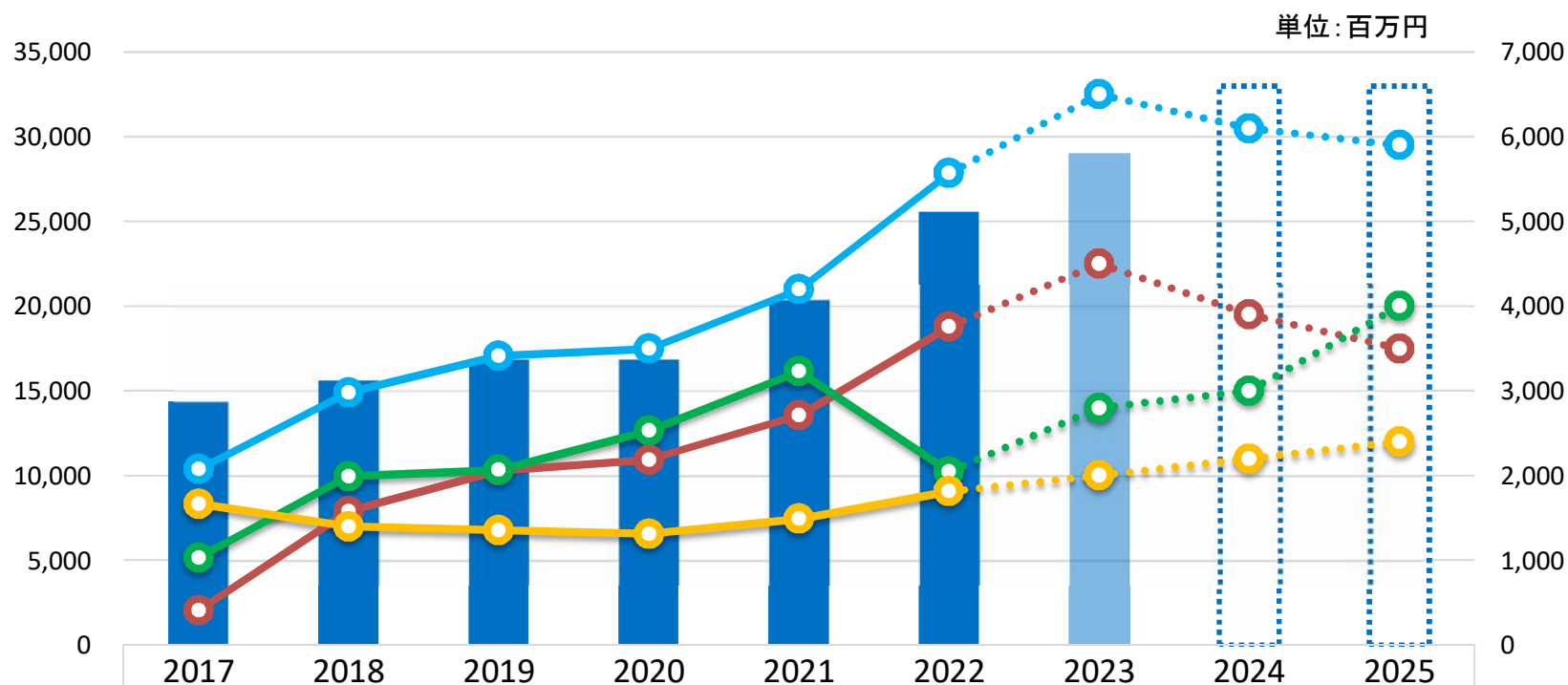
2018年～2022年:実績、2023年:予想、2024年～2025年:金額イメージ

- 資本効率の指標であるROEを継続採用するとともに、中期計画の積極的投資継続を踏まえ、キャッシュ・フローをより重視し以下の通り設定

経営目標		2022年12月期実績
ROE	6%超	9.1%
EBITDA	40億円超	55.6億円

- 継続的かつ効率的なサステナビリティ経営を目指し、株主の皆様のご期待にお応えし、安定的に成長を図る

# 今後3年間の業績イメージ



	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
■ 売上高	14,348	15,615	16,854	16,859	20,354	25,564	29,000		
● 営業利益	406	1,580	2,057	2,185	2,709	3,756	4,500		
○ EBITDA	2,073	2,979	3,414	3,497	4,198	5,568	6,500		
● 設備投資	1,028	1,991	2,066	2,528	3,230	2,048	2,800		
○ 減価償却費	1,666	1,399	1,356	1,311	1,489	1,812	2,000		
営業利益率	2.8%	10.1%	12.2%	13.0%	13.3%	14.7%	15.5%		
ROE	0.5%	2.4%	4.9%	5.3%	6.7%	9.1%	9.9%		

2017年～2022年:実績、2023年:業績予想、2024年～2025年:業績イメージ

# 将来予測に関するご注意事項

---



本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。